

令和4年度の委員会運営方法について

1 付議事件

都市の成長の基盤を支える魅力と活力ある郊外部のまちづくりに関すること。

(参考：過去の特別委員会における調査・研究テーマ)

年度	調査・研究テーマ
令和3年度	新たな生活志向に基づいた選ばれる郊外部について
令和2年度	郊外部における地域の価値を高める仕組みづくりについて
令和元年度	郊外部を活性化させる持続可能な地域交通について
平成30年度	郊外の集合及び戸建住宅団地等の再生による街の活性化

- 2 市会運営委員会（平成24年5月8日開催）での特別委員会運営方法に関する決定事項
- ・付議事件の調査・研究を目的として、委員間の意見交換、事例視察や参考人意見聴取などを行う。
 - ・委員会報告書は、付議事件に対する結論や一定の方向性を得たとき又は議員任期が満了するときに議長に提出するものとする。

3 令和4年度調査・研究テーマ案

「郊外部にある観光資源の魅力とその情報発信について」

(テーマ選定理由)

近年、日本国内でも人口減少が加速しており、また本市でも少子高齢化が進んでいる。それに伴い、生産年齢人口の減少及び社会保障費の増加などのため、市内活力の維持がこれまで以上に重要視されている。そのような状況の中で、将来にわたって広く市内経済の活性化を図るためには、都市部のみでなく、市内人口の6割が居住している郊外部での取組が一層重要になると考えられる。

しかしながら、郊外部においては、大規模団地等の老朽化、空き家の増加といった課題や、住民の急速な高齢化が懸念されており、本市郊外部に多様な世代の人を「呼び込み」、「定着させる」ことは、郊外部の活性化にとって、急務であると言える。

そうした中、これまでの本委員会における調査・研究としては、多様な年代が暮らしやすく世代の循環が生まれるまちづくりや、新たな生活様式のもと、住まいや自宅周辺エリアを「住む」だけでなく、生活全体がその場所で満たされるといった住環境整備の重要性や、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域交通の一層の充実など、主に、郊外部へ「定着させる」といった切り口での調査・研究が行われてきた。

今年度においては、人を「呼び込む」という切り口に着目し、郊外部にある既存の観光資源や、地域ごとの特色に対して、デジタル技術等、新たな要素と組み合わせることにより、観光資源の価値向上を図り、それによって生じる新たな魅力と、人を惹きつける効果的なプロモーション方法等について、調査・研究を行うこととした。